

## 令和6年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。

4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要

○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：学校運営協議会委員評価

評価項目	達成目標と方策	第一次評価者所見	評価		
			第一次	第二次	第三次
学力向上	1 45分の授業の充実を図るとともにふり返りの時間（習熟）を5分以上確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全年学年、全領域で平均（全国・県）を上回るようにする。	児童のつまずきを適時把握し個別指導に生かすことができた。ふり返りについては教科書の他にドリル学習アプリを積極的に活用することで、個々の習熟度や進度に合わせて習熟できるようにしている。全国学力・学習状況調査では、全領域で平均（全国・県）を上回っている	3	3	3
	2 簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、90%以上の児童が集中して話を聴いたり、自分の考えを進んで発表したりすることができるようになる。また、友達といつでも協力や対話ができる授業環境を整える。	98%の児童及び84%の教員が「3」以上と評価している。普段の授業を見ても、友達の意見を聞いて考えを深め、進んで発表できる児童が増えてきた。今後も児童同士の対話を大事にしながら、授業を展開していきたい。	3	3	3
	3 ICT機器等を活用して個人や集団でしっかりと思考する場を工夫するとともに、対話を通して、児童同士が教え合い、互いを高め合いながら、考えをまとめていくことができるようになる。	ローマ字入力でのタイピング等、児童のICT活用能力は、とても優れている。また、タブレット端末や電子黒板を使用しながら、話し合い活動を通して、考えを深めていく授業スタイルも身についてきている。	3	3	3
	4 読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、100%の児童が目標を達成できるようになる。	読書の質を高めるために、昨年度から実施した「朝の読書タイム」や「わくわく読み聞かせランド」「家庭読書の日」などの取組を継続して行なってきた。図書スペースの利用や本の貸し出し数は増加したが、個人差が見られる。読書の魅力を伝えながら継続して取り組んでいきたい。	3	3	3
生徒指導	1 あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域で時と場に応じたあいさつやお礼など90%以上の児童が達成できるようになる。	「3」以上の評価は、児童が88%、教職員が100%、保護者が76%である。また、地域からも「あいさつの声が小さい」等の声が聞こえる。あいさつの意味を伝えるなどしながら、学校外でも、あいさつや返事が十分にできるように指導していきたい。	3	3	3
	2 思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを90%以上の児童ができるようになる。	「3」以上の評価を付けている児童は85%である。言葉選びや伝え方を間違って、相手に嫌な思いをさせたことでトラブルになるケースがよく見られる。トラブルを良い学びに変え、やさしい言葉遣いや思いやりのある行動ができるようにしていきたい。	3	3	3
	3 ろうか歩行や室内での過ごし方など、自ら考えて判断・行動し、90%以上の児童がけじめのある行動がとれるようになる。	81%の児童が「3」以上の評価である。一方、教師の評価は68%であった。この項目についても、児童と教師の評価に差がある。一方的な指導ではなく、正しい行動や行いを考えさせながら、身に付けさせたい。	3	3	3
	4 学校・地域における行事やボランティア活動等に90%以上の児童が進んで参加できるようになる。	地域での行事やボランティア活動への参加率が少ないようであった。学校でのボランティア活動についても、児童の思いや自主性を尊重した活動になるように、改善していく計画である。	4	3	3
体力向上、安全指導	1 体育指導法の充実を図り、90%以上の児童に全力で運動に取り組ませる。また、友達と協力しながら競技することができるようになり、「県体力テスト」でA及びB判定の児童が60%以上になるようになる。	児童による評価は、3以上が100%であった。一方、体力テストのA及びB判定の児童は46%であった。朝の時間のパワーアップ体操や体育の授業を充実させ、改善していきたい。	4	4	3
	2 「学校で天気のよい日には、昼休みに友達と仲良く外遊びをしている」と回答する児童が90%以上になるようになる。	天気の良い日に外遊びをする児童が多く、3分の2の児童が評価「4」であった。「仲良く遊ぶ」という点については、放課後子ども教室とも連携して、良い人間関係をつくるための経験の場と捉え、適時指導していきたい。	4	3	4
	3 立腰指導をし、「様々な場面で姿勢に気を付けている」と回答する児童が90%以上を達成できるようになる。	評価が「3」以上の児童が91%であった。一方で、保護者の評価は52%であった。良い姿勢をとることの趣旨説明を行なながら指導し、意識の向上を図りたい。	3	2	3
	4 家庭と連携して生活リズムの改善やメディアの利用の注意喚起を図り、「8時間以上の睡眠をとり毎朝朝食を食べている」と回答する児童が100%になるようになる。	評価「3」以上の児童が93%、保護者が76%であった。養護教諭を中心に、保健便りやすこやか週間、学校保健委員会等を通して繰り返し啓発している。特に本年度からは「朝食」の質を上げるための取組をスタートさせた。また、十分な睡眠時間を確保するために家庭とも連携していきたい。	3	3	3
家庭・地域との連携	1 保育園への訪問や保育園児の小学校体験などの相互の交流の充実を図り、互いのよさを味わわせるとともに、職員間の研修や交流も行い、連携した教育を推進する。	1～2年生を中心して積極的に交流学習を行なっている。毎年定期的に行っており、反省と改善を重ねながら充実した学習になるように務めている。職員間では、担当者レベルでの交流及び研修は行なっている。今後も交流や研修の場を確保し、連携した教育を円滑に実施できるようにしていきたい。	4	4	4
	2 町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会や町教育の日等への取組を通して、各小・中学校と、連携した教育を図ることができた。今後は、複式指導の授業技術の向上を図るために、も積極的に他校と研修を行なっていきたい。	4	4	4
	3 コミュニティースクールとしての機能を生かし、家庭・地域との連携を深め、家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図る。また、キャリア教育の一環として、地域や保護者の人材を活用し、色々な職業を知る機会をつくる。	ふれあい会や保護者によるキャリア教育など、地域や保護者の方々の協力を得ながら実施することができた。特に運動会は「地域ふれあい運動会」として、実施することができた。今後もコミュニケーションとしての機能を生かし、家庭や地域との連携を深めていきたい。	4	4	4
	4 ホームページを活用し、家庭や地域に学校行事や児童の様子を発信し、情報提供を図る。	定期的にホームページを更新できるように努め、家庭や地域に学校の様子を発信することができた。今後は、安定して更新ができるように努めていきたい。	4	4	4

